WESLEYAN HOLINESS SEMINARY
神学院だより

2023年6月
第79号

〒111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院

発行人　山崎　忍
編集人　文カンホ、後藤貴子
印刷所　ヨベル

小さな自分史

神学院専任講師　山口秀樹

「イエスの愛イエスの愛
海のごとく寄せ来たる
栄えの波われをつつみ
わが喜び限りなし」
新聖歌267

賛美の後で小出忍先生が招きました。大学4年生で初参加した関東夏期聖会。思い出をたぐれば、奥多摩は古里、清流脇の集会場の窓は開け放たれ、数台の扇風機が回っていたこと。若き峯野先生、本間先生が前の方で大声で祈っていたこと。信徒の皆さんも競うように祈っていました。聖会は霊の戦いの戦時下のようでした。

「献身の時」として開かれた聖会の御言葉は、

「石に文字で刻まれた死をもたらす務めさえ栄光に包まれて、モーセの顔に輝くつかの間の栄光のために、イスラエルの子らがその顔を見つめることができなかったとすれば、まして、霊に仕える務めは、なおさら、栄光に包まれているはずではありませんか。人を罪に定める務めに栄光があったとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ち溢れているからです。」（コリント二3・7～9）

「人を義とする務めに、神様はあなたを必要としておられる。お応えして出てきなさい」と招かれて、「神様が私を必要としてくださっているなら、お従いします」と、数名の人と共に講壇の前に出ました。

献身を決断した聖会に行く前、ある友人と会話していたとき、「山口君は将来どうするの？」と聞かれ、答えに迷っていると、彼は言いました。「僕たちクリスチャンはね、どんな職業についても、神に人生を献げて、神のために生きることは決まっているんだ。神のために献げる人生なら、直接献身して神と人にお仕えすることを考えようよ」と、そんな素敵な友人の後押しがあったのだと思います。彼も献身の道を進みました。

私の両親は折り合いが悪く、父はほとんど家に帰りませんでした。たまに帰っても、子どもが寝静まってから、声を潜めて言い合いをしていました。そんな家に居るのが嫌で、私は教会に入り浸っていました。信仰の深みはまだわからず、ただ夢中で教会に行っていただけの「教会命（いのち）」青年でした。

父は宗教が大嫌い。臨時にお小遣をもらったので聖書を買って父に見せると、「そんなものを買うならもう小遣はやらない」と言われました。母もクリスチャンにはならないと言い続け、民謡の会に入り浸っていました。大学卒業を前にして、改めて、母に聖書学校入学準備のために教会に移り住むことを伝えると、母は「私もクリスチャンになる」と言い、初めて母と祈りました。洗礼を受けた母は、その母（私の祖母）と、末子（私の弟）に福音を語り、神は受洗へと導いてくださいました。わが妻は、看護師時代に淀橋教会から献身に導かれ、結婚後、亡くなる数ヶ月前の私の父に、そして若き時から折々に手紙を書いて伝えていた彼女自身の父に、病床

で主イエスを受けいれることを勧め、神は二人の父親を洗礼に導いてくださいました。

神は私たちに三人の子どもを託されました。長男は召天。未信者の妻と幼い娘を残していきました。他の子ども二人はそれぞれ未信者を結婚相手に選びましたが、主の憐れみにより、それぞれが受洗に導かれています。

未信者の家族から救い出された私たち夫婦にとっては、家族・親族伝道は、結婚当初からの祈りであり、まだ途上です。

私たちは高齢者となりました。様々の場面で未熟さを痛感しています。若き日を振り返れば、神の憐れみのみを思います。未熟者を忍び支えてくださり説教を聴き続けてくださった以前お勤めしていた教会の皆さん、また今の教会の皆さん。教えるものは何も無かったのに、神学院のお手伝いをするようにと、毎週呼んでくださった恩師の先生方。上京に合わせて「ウェスレー学習会」を持ち、学ぶ楽しさを教えてくださった同労者の皆さん、神に立てられたこれらの方々から、愛の実践を教えて頂きました。だから私も愛をささげたいと願うのです。

こんな者たちを召し出してくださった恵み深い神を思うとき、ただただ心の底から感謝があふれてきます。

第34回ウェスレアン・ホーリネス神学院　卒業式(2023年)

◆卒業生の証し◆

神学院卒業後、新しい地で

卒業生　黒木真菜

「守るべきものすべてにも増して　あなたの心を保て。命はそこから来る。ねじ曲がった言葉をあなたの口から退け　ゆがんだ言葉を唇から遠ざけよ。目は正面を見据え　まなざしを前にまっすぐ向けよ。あなたの道のりに気を配れ　あなたの歩みは確かなものとなる。」

（箴言4・23―26）

神学院を卒業して早くも2か月、新しい任地に遣わされて1か月以上が経ちました。今日まで健康と奉仕が守られていることを感謝いたします。

伝道師として渋谷教会に遣わされ、ついこの間まで学生であった者が、准允と派遣を経て「先生」、「伝道師」と呼ばれるようになったことに、嬉しさ、厳かさを感じると同時に、やや焦りもあります。名前ばかりで中身が全く伴っていないと感じるからです。しかし、伝道・牧会の器として神と人とにお仕えするということは、焦っても、何か自分が頑張ることで全うできることではないと思います。むしろ、相応しくない者が、主の計り知れない御憐れみの中で伝道師とさせていただいたことを自覚して、まずは自分自身が日々主イエスに寄り頼んでいくことが何より重要であると教えられています。

神学院での生活は、いくつもの制約があるとも言えますが、そのことによって守られていたことが多くあります。霊的な命を守るために欠かせないデボーションや、学生と先生だけで静まって礼拝する毎週金曜日の学生チャペル、先生方から霊的な励ましや慰めをたくさん受けていた授業、女子寮での週に一度の祈祷会、などです。このような溢れんばかりの恵みを受けていた神学院から離れて、気付かされたことは、自分

の魂をケアすることがいかに大切であるか、ということです。

伝道師として今置かれているところで、まだ神を知らない方を主の御許にお連れしたり、主とのさらに深い関係へとお導きしたりするために何ができるだろうか、と思い巡らす中で、まず私自身が日々主との深い交わりに生きていることが重要だと示されました。私の魂が、尽きることのない命の泉から水を飲んでいるか、主イエスによって霊的に生きているか、目を覚ましているか、このことを何よりも優先したいと願っています。これは当然のことではありますが、これを疎かにすればすぐにサタンの策略に飲まれてしまう、重要なことだと思います。

このようなことを考えている最近ですが、無事に神学院を卒業することができ、そして伝道師とさせていただけたことを心から喜んでいます。かつて祈った「もし許されるなら、24時間神様のために、主の体なる教会のためにお仕えさせてください」という祈りを主は聞いてくださり、今、福音宣教のお働きの一端に加えていただいているということが、本当に嬉しいです。私に与えられている時間も身も心も全て、主のために用いていただける、私にとってこれ以上のことはありません。

主のご栄光が崇められるために、この小さき者を用いていただけることに心から感謝して、愛する主の聖なる御名が日本中・世界中に宣べ伝えられることを祈りながら、小さなことに忠実にお仕えする者でありたいと願います。

◆新入生の証し◆

神学院に導かれて

1年　姜（カン）　聖栄（ソンヨン）

私は小さい頃からクリスチャンホームで育ったため、小学生の時にはなんとなく将来の夢は牧師になることだと言っていました。それが中学生まで続き、高校生になった時、やっと真剣に考えようとし始めました。しかし私の性格上、なんでも後でやるという人間だったので、高校卒業後に考えようと思い、高校卒業後には大学卒業後に考えることにしようと決めていました。外国の大学に入学して2年後、幸か不幸かコロナの影響により日本に帰ってオンラインで授業をすることになりました。この帰国を通して一気に神学院入学まで近づいたと思っております。

日本に帰国してから1年後、牧師である父から教会の働きを手伝ってほしいと言われました。その当時私はアルバイトをしていましたが、「はい、わかりました」と答え、すぐバイト先に電話をすることにしました。心の中にはバイト先の先輩に怒られるのではないかと恐れもありましたが、とにかく何も考えず電話をすることにしました。相手の反応は「了解です」の一言でした。怒られると思っていた私は「え、これだけ？」と呆気に取られてしまい、理由を聞く事にしました。驚くことに、そのバイト先の経営状況があまり良くなく、その月で店を閉めようとしていたそうです。神の働きをしようと決断したその時から、神は私の道を整えてくださっていることがはっきりと分かりました。無事バイトを辞め、教会で働き始めて2～3か月後、月に一回母教会でメッセージをしてくださっている工藤弘雄先生に神学校についてのアドバイスをもらう機会が与えられました。そしてある日、教会での働きも楽しく感じていたので真剣に神学校について考え始めようと思いました。2週間程悩んでいたら、その悩みが工藤先生にまで届いたかのように、私の両親を通して一つの神学院を推薦してくださいました。それが今在学させていただいているウェスレアン・ホーリネス神学院でした。

私はもし入学できるなら是非入学させていただきたいと思ったので、そのために色々言われたものを準備していきました。揃えられるものを全て揃え、入学試験を受けた後、ふと過去を振り返ってみると、今までいくら神学校に行きたいと心の中で思っていて

も行動するには至っていなかった自分が、神の働きをし始めてからたったの5か月で神学院入学までたどり着けていたことに気付かされました。

この事を通しても、神が神の働きをする人を喜ばれて、その人々のために全てを備えてくださる方であるということを悟りました。神学校に入学してすぐに感じたことは、入ったその時点で神からの訓練はもう始まっているということでした。まだ京都にいた頃、私は早起きがとても苦手で早天礼拝にあまり参加した事がありませんでした。しかし、入学してから今日に至るまで、まだ1か月しか経っていませんが、全ての早天礼拝に参加できています。これからどのように神に喜ばれるものに変えられるかまだわかりませんが、神学院での訓練を通して自分自身を砕かれながら神の道をまっすぐ歩むものになって行きたいと思っております。

◆在校生の証し◆

前のものに全進を向けつつ

2年　増渕　徹

皆様の祈りに支えられて、2年生に進級させて頂きましたことを感謝致します。

昨年から腰椎椎間板変性症を発症してしまい、重い腰痛と右足の痛みにより歩行に支障をきたすようになりました。私はそのとき、神学院を退学しなくてはならないのかという不安に襲われました。教室に移動することも出来ず授業が受けられなくなっていたからです。そのような私にサタンが囁きました。

「おまえは伝道者として使い物にならない。さあ家に帰ろう」と。私はこの囁きに頷きかけました。

そんなときです。先生方、そして学生の先輩方、信徒の皆さまが、「大丈夫だよ。心配ない」と私に光を与えてくださったのです。

私は神のご愛の中で生かされていることを実感しました。

「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ」

（フィリピ3・13）

ある先生のお書きになられた記事から示された御言葉です。

目標への道は必ずしも平坦とは限りません。躓くこともあるかも知れません。しかし、荒野と思えるような道にこそ主イエスが共にいてくださり守ってくださることを学びました。後ろを振り向かず、示された新しい道を歩み、あらためて主イエスに従うことを決意いたしました。

これからもどうかこの小さき者の為にお祈りください。

謙遜に仕える

3年　細井一広

主の御守りと皆様のお祈りのうちに、3年生となることができ、感謝いたします。この2年間で、少しずつ知識や経験が増えてきましたが、一方で人を裁き、人を妬む自分に日々気付かされています。また、自分が何か

一角の者のように勘違いしている傲慢さも、時折示されます。そのような中で、今年度のオリエンテーションで学んだ「謙遜」は、まさに今の自分になくてはならない学びでした。

自分こそ無価値で、無力な者であること、キリスト無しでは何も無い者であること、そして、誰よりも謙遜の生涯を貫かれたキリストを目標とし、キリストを着せていただくこと、これらを改めて学ばせていただきました。

「へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考えなさい。」（フィリピ2・3抜粋）

今年度は神学院のキャプテンの働きをしていますが、聖霊の力により、神に人に謙遜に仕える者として、その務めに取り組ませていただきたいと思っております。

また、神学生も少ない昨今ですが、後援会のサポートで、新たに夕食の賄いに携わってくださる

方々が与えられました。温かい御支援に感謝の言葉もありません。神様の召しに応えるとともに、多くの方々のお祈りと御支援に感謝しつつ、さらに学びと奉仕に励んで参ります。

祈りはむなしくなく

4年　松本麻椰

八潮キリスト教会でのご奉仕を終え、4月から渋谷教会に行っています。1年前は淀橋教会を離れることに正直不安もありましたが、主は八潮教会の皆様とのすばらしい教会生活を与えてくださいました。奉仕する中で、どうしよう！できない！と思うようなことも度々ありましたが、その度に聖霊の導きをいただきました。一度与えられた礼拝説教の機会には、士師記6章12節「力ある勇士よ、主はあなたと共におられます。」の御言葉から、ギデオンは色々な弱さのある人でしたが、主が共にいてくださる故に力ある者とされたこと、などが示されお話しました。私自身も力のない者ですが、最強・全能の主が共におられるからできることがあると信じます。神学院生活がすでに折り返しをしていて、上級生としてキャプテンを任せていただいていることは驚きです。学びの内容も難しくなっていますので、共におられる主にすがりつつ歩みたいです。

ところで、神学生のメンバーについて、毎年神は、最善のメンバーを備えてくださると感じています。去年はコロナ禍の中、夏の派遣ができない時に、卒業した岡先生が映像、舩津先生が音声と編集技術を駆使して配信作業をしてくださいました。お二人がいなければ去年のYouTube配信はできませんでした。今年は、年上の方が多くなるから、静かで落ち着いた生活になるのかなと思っていましたが、予想に反して会話や笑いが絶えない生活になっています。年齢や背景はさまざまですが、家族のようにたくさんの時間を過ごす神学生生活で、お互いを愛することを学ばせていただいています。来年度はどのようなメンバーになるのか、新入生もお祈りして待ちながら楽しみにしています。

◆神学院オリエンテーション◆

オリエンテーション報告

講師　峯野慈朗

新年度を迎え、4月11～13日に山中湖畔のサレジアン・シスターズ修道院で学生と教師によるオリエンテーション合宿が開かれました。アンドリュー・マーレーの「謙遜」をテキストに学びと親睦の時をもち、1年のよいスタートとなりました。

東京から現地に向かう車の中では、新入生の姜（かん）聖栄（そんよん）兄と川崎豊先生とたくさん話ができました。とくに姜兄の母教会のことを聞かせていただきました。ご両親が開拓された京都宣教教会は中国人伝道に特化した教会で、20年弱の間に留学生を中心に多くの方が救われ、現在150名ほどが集っておられます。若い方々が多く、奉仕グループごとに聖書を学び、伝道を担っておられます。姜兄は祈りのリーダーをしておられました。とてもワクワクする話でした。

夜の教師たちの自己紹介の時間は、オンライン参加の教師も含め、「これまで辛かったこと、うれしかったこと」を順番に話しました。今まで聞いたことがない話もありました。とてもよい時間でした。

今回、マーレーの「謙遜」を久しぶりに読み、あらためてキリストがご自分を「無」にされた姿が迫って来ました。「子は、父のなさることを見なければ、自分からは何もすることができない」（ヨハネ

2023年オリエンテーション

5・19)。毎日、父の御心を求め、そこに従って行きたいと思います。

食卓での交わり、スモールグループでの祈りもよい時間でした。2日目午後は車で富士山の5合目に上り、リフレッシュしました。途中2合目にある富士の聖母像にも訪れました。

神学院23年間の思い出

湯澤鈴世

開拓伝道の志を与えられ、横浜に出てきたのが1997年でした。高校生の娘2人を飯田市に残し、中学生の娘と3人で新しい歩みが始まりました。暫くして発掘現場の作業、次いで食材の配達をしていました。そんな時、神学院の事務の仕事への声をかけていただき、2000年の2月から務めさせていただきました。

採用面接の時に黒木安信先生が仕事を始める前に黙想と祈りの時を持つようにと話されていたのを覚えています。

それまで神学院の事務をなさっていた岡田房子さんは、私が神学生とき、派遣先だった志木教会の方でしたのでよく存じ上げておりました。岡田房子さんは事務のベテランで、綺麗な文字を書かれていました。

神学院生の方々は皆さん個性豊かで、その年の学生キャプテンとは、授業のある火曜日から金曜日、毎日連絡事項の確認を行ってきました。キャプテンは順番に回ってきますのでお一人お一人との懐かしい思い出となっています。

私が勤め始めたころはA棟の建物のみで、男子寮が4階、女子は別に借りていた所から通ったり、出身教会から通っている学生もいて、電車代の学割が利くかどうか問い合わせたりもしてみました（これは学校の規模的に無理でした）。また、授業に来られる先生方との対応、お弁当の注文数の確認は大切な仕事です。その他、毎年行われている公開講座では、多くの著名な先生方の講義を聴く事が出来ました。

23年間の中で現在のB棟の取得がありました。B棟は、先に取得したA棟との間が僅かで、B棟のドアを開けたらすぐA棟のドアという形で繋がり、30センチの奇跡と言われました。そして教団は宗教法人を取得しました。現在、事務局は会計ソフトの導入、税理士さんによる管理等、事務管理も充実してきました。また、教団の事務スタッフの方々との交わりも良い勉強になりました。

事務職を退任する日

この23年は多くの恵みを頂いた時でした。朝の通勤時間は、大切なデボーションのひと時でした。また、車窓から見える景色の中からドーム型の屋根の建物を探して数えたり、羽田空港に向かうジェット機の大きな姿を見て楽しい思いになったりしました。今はお召されになった菅原登志子先生との帰り道の交わりも懐かしい思い出です。

神学院の事務という仕事にあたって、頂いた御言葉はコリント一4章1、2節。「人は私たちをキリストに仕える者、神の秘儀の管理者と考えるべきです。この場合、管理者に求められるのは、忠実であることです」。

神学院生の姿を見るとき、私は自分の神学生時代を思い出していました。今は訓練の時、出てからが本番。そして私たちの人生は献身という括弧でくくられた人生なのです。

これまでのお祈りを心より感謝いたします。これからも神学院をよろしくお願いいたします。

◆献金のお願い◆

神学院では、毎年、年会時における予約献金、神学院デー献金、また個人、団体献金に支えられ運営を続けております。昨年も多くの方々の支えの中で、神学院の働きが守られましたが、今年もこの紙面を通して、予約献金のお願いをいたしますことをご理解ください。教団の将来の伝道者育成機関である神学院運営のために、更

に祈り、お献げいただければ感謝です。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。2023年3月に1名の卒業生を送り出し、4月には1名の新入生が与えられ、新年度が始まりました。今年は新型コロナウイルスの影響がすこしずつ減っており、多くの教師と生徒が対面で卒業式と入学式にあずかり、1年の恵みを感謝し、新たな歩みをゆだねつつスタートしました。その様子を神学院ホームページ、またYouTube動画を通して視聴することができます（QRコード参照およびYahoo、Googleで「ウェスレアン・ホーリネス神学院」で検索）。皆様のお祈りと励ましによって喜びと恵みあふれる卒業式、入学式を執り行うことができました。

神学院は事務主事として尊い働きをされた湯澤鈴世先生が23年間の働きを終え退任されました。いままで学生たちにとっては、お母さんのような存在であり、教師たちにとっては、あらゆる面で支えてくれた謙遜で心強い仲間でした。神学院の事務の歴史において、岡田房子さんに続いて、忘れることのできない存在です。いままでの湯澤鈴世先生の働きを心から感謝します。また、新しく事務主事になられた三木美保姉妹（浅草橋教会信徒）の上に主の知恵と力が豊かにあるように覚えてお祈りください。

今回の神学院便り第79号では、神学院専任講師の山口秀樹先生の巻頭言、新入生の姜（カン）聖栄（ソンヨン）神学生の証し、卒業生の黒木真菜先生の感謝の証し、在校生の新年度に向けての抱負、湯澤鈴世先生の神学院23年間の思い出、峯野慈朗先生のオリエンテーション報告、そして、献金者一覧を掲載いたしました。

神学生は、前期授業終了、試験の後、7月の関東夏期聖会より、夏期伝道期間に入ります。今度の関東夏期聖会も対面で行う予定にしていて学生たちも期待しています。神学生それぞれの霊性、健康が守られ、成長する時を過ごすように、また、派遣される諸教会に主の豊かな祝福がありますようにお祈りください。この神学院だよりを読んでいるすべての兄弟姉妹の上に主の豊かな祝福がありますように心からお祈りいたします。

ウェスレアン・ホーリネス神学院入試要綱

＊受験資格＊

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後２年以上の者
- 専心宣教牧会の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

＊入学試験日＊

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください（①～⑤は学院所定）

①入学願書　②履歴書　③信仰歴　④所属教会牧師の推薦状　⑤召命に関する短文（400字×３枚程度）　⑥最終学校卒業証明書　⑦同成績証明書　⑧健康診断書

1．入学試験日

第１回　2023年　11月　21日（火）　試験科目：聖書、英語、ホーリネス
第２回　2024年　２月　13日（火）　試験科目：聖書、英語、ホーリネス
第３回　2024年　３月　５日（火）　試験科目：聖書、英語、ホーリネス

2．願書提出締切　　試験日の２週間前までにご提出してください。

ウエスレアン・ホーリネス神学院
連絡先：〒111-0052　東京都台東区柳橋２－22－３　TEL 03（3851）3762
詳しくはホームページをご覧ください　https://whseminary.jimdo.com/

神学院ＱＲコード

ホームページ

YouTube